

自分たちの地域を自分たちで守る！

地域防災マップを作ろう

近年、頻発する自然災害が大きければ大きいほど、公的な援助活動はすぐに期待できない現状があります。そこで、地域住民が手を取り合って救助、応急活動をするようになります。そのため、普段から住民同士の関係性を深めておくことが必要となります。また、災害時には社会福祉協議会が設置運営する災害ボランティアセンターと住民がつながり、被災の状況から一刻も早く復興しなければなりません。

そのために、地域防災マップ作りをおして、地域の支え合い、助け合いを推進していくことの重要性を村民の皆さんと一緒に学び、実行していくことが必要です。村民、地域、行政、それぞれの「備え」が災害に立ち向かう大きな力となります。

地域防災マップとは

「地域防災マップ」とは、地域内で災害時に役立つものや危険なものなどを地図上に書き込んだものです。いざという時に役立つ情報として、避難施設や防火用水、公園などがあります。また、災害が発生した場合の危険箇所として、過去の被災箇所、がけ地、古いブロック塀などがあります。また、避難する際に支援の必要な配慮者情報など、このような地域の情報は、「何となく知っている」という方も多いと思います。しかし「いざ」という時に、何となくでは本当の力になりません。

「地域防災マップ」は、地域の情報をみんなで共有し、地域住民が手を取り合って避難、救助、応急活動をするうえで、重要な道具となります。

災害に強い地域づくりのために！

関川村社会福祉協議会では、平成27年度より、県民たすけあい基金助成事業を活用し、防災研修会の開催や災害ボランティアセンター設置訓練を行ってきました。

最終年度の今年度は、「災害時に備える地域防災マップづくり」を行いました。

モデル集落（朴坂・高田）地域での災害時支援（要配慮者等）の実際を考え、安心・安全に過ごせる地域、自然災害に備え、支え合いマップを活かした近所の助け合いで、災害に強い地域づくりを学びました。



作成の流れ(例)

作成前の準備

- ① 集落で目的、必要性を確認
- ② 地図を用意
- ③ 記載する項目内容を確認

作成作業

- ① 前もって少人数で大まかに記載をする。
- ② 地域の確認
- ③ グループに分かれて、チェック内容を地図に書き込み整理
- ④ 全体でマップへの記載事項をまとめる
- ⑤ 集約して記載記号等を分かりやすく工夫し、マップ案を作成

マップ完成

- ① 清書し仕上げて、集落で最終案を決定、共有する
- ② マップの活用

研修会と マップづくりを 通して



防災マップなので、避難所ルートの検討や危険箇所を確認するものと考えていたが、支え合い部分や要配慮者のことを考えるマップであり、いざという時に集落の避難体制を考える良い機会となった。

集落役員がもっている情報を出し合って、マップを作りあげることで、集落の実情を理解、共有できたことはとても良かった。

講師先生の「いざという時には、互いのことにどんどん踏み込んでいかないと助け合えない」という言葉に、個人情報保護やプライバシーという面で戸惑いを感じたが、今後のマップ活用を考えるうえで、重要な意見として考えていきたい。

情報共有だけでなく、防災意識も高まるマップ作りができた。



須貝 信夫さん
(高田区長)

マップづくりを集落で進めるうえで、プライバシーに配慮し、人権を尊重しあえる関係づくりが大切になってくると思う。話し合いをすることで、地域で共に助け合う力をさらに強めていきたい。

今、集落全員が集まる行事と言えば、避難訓練というくらい集落に定着をした。防災を考えることで集落の結束が強くなると思うので、これからも継続し継承していく必要性を感じている。

朴坂では、毎年避難訓練を実施し、防災意識の向上に努めてきたので、今回のマップ作りでも、積極的に意見や情報を出し合うことができたと思う。マップを囲んで話し合いをすることで、いろんなアイデアが飛びだし、防災、支え合いという枠が、農地の助け合いまで広がりをみせた。



佐藤 隆平さん
(朴坂区長)

事業を終えて 作成の効果

社会福祉協議会
地域福祉活動係長

加藤 つや子

実際のマップづくりを通してご近所同士が助け合い、支え合う関係づくりになっているかを考えてもらえました。普段から、ふれあいや絆を強めておき、気軽に「助けて!」と言える関係をつくっておくことが、いざ災害が起きた時に助け合えるということがわかりました。その上で、自分の集落の課題を出し合い、「出来ていることは何か」「自分たちで何ができるのか」を具体的に考えてもらうことができました。

また、社協職員が地域住民とつながり、要配慮者の災害時支援、行政や各関係機関とのネットワーク体制の整備を考え、災害発生時には、社協が運営する災害ボランティアセンター機能を十分に発揮しなければならぬことも学びました。

マップづくりを 支援します!

マップ作り研修会後に行ったアンケート調査では、参加者のほとんどが「参考になった」「今後実施したい」「取り組みを検討したい」との回答がありました。これを機に多くの集落からマップづくりを行ってもらうため、地図作成の進め方や地図の準備などの支援を行いますので、お気軽にご連絡ください。

●問い合わせ先

関川村社会福祉協議会

☎ 64-0111

2. 近所の住民の支え合いマップ

